



# 岐阜大学機関リポジトリ

Gifu University Institutional Repository

## 知的障害者の療育における野外活動の効果に関する 考察

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2008-02-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 上原, 巖 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12099/2520">http://hdl.handle.net/20.500.12099/2520</a>

氏名(国籍)	上原 巖 (長野県)
学位の種類	博士(農学)
学位記番号	農博甲第179号
学位授与年月日	平成12年3月14日
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当
研究科及び専攻	連合農学研究科 生物環境科学専攻
研究指導を受けた大学	信州大学
学位論文題目	知的障害者の療育における野外活動の効果に関する考察
審査委員	主査 信州大学 教授 伊藤 精 晤 副査 岐阜大学 教授 林 進 副査 静岡大学 教授 小嶋 睦 雄 副査 信州大学 教授 佐々木 邦 博 副査 信州大学 助教授 馬 場 多久男

### 論文の内容の要旨

研究の目的として、野外環境における活動とレクリエーションが療育的效果を持ち、野外環境に出かけることが困難な身体的あるいは知的障害者にとって一定の療育方法として野外環境を活かした作業療法あるいはレクリエーション療法が開発されようとしている。これを野外療育として室内療育と対比されており、知的障害者の療育方法においても室内療育から野外療育への展開が模索され、日本でも既にいくつかの野外環境を活かした療育施設が見られる、増加の方向が見られる。実際の野外療育活動を通じて、野外療育の方法と効果を検証していくことが本論文の目的となっている。

論文の構成は第1編の知的障害者の療育に関する概論部分と第2編の3事例の療育施設における研究部分とで構成されている。

第1編は4章で構成され、知的障害と療育の概念の定義を行うとともに、事例研究の位置づけを行うことによって、研究の目的と方法を明確に示している。療育とは治療方法の確定していない障害について教育や保育の活動によって症状を軽減・克服させる方法としてとられるものであり、どのような療育方法が見出されてきたかを明らかにしている。知的障害者の療育に対する社会的認識の変化に関して、欧米に始まる知的障害者の療育の近代の歴史的進歩をたどり、現在の段階を明らかにして、解決すべき問題点を見出している。野外療育の方法は先端的なものであるとともに、方法自体の検討とその効果の検証が重要である点で、本論文の意義をみいだしている。日本における知的障害者に対する社会的認識と療育施設の現状を明らかにして事例研究を位置づける概観をおこなっている。

第2編の3事例の療育施設における研究では、研究方法として実際の療育活動を行い、療育に当たった個々の障害者への長期的な対面的観察を通じて調査を行っている。同時に施設の同僚の療育効果に対する評価を総合化して客観化を行っている。

3施設の野外活動による療育活動の内容は相違しており、U.S.A.のカロライナの施設<Carolina Living Learning Center>は、障害者個々の療育に対応できるTEACCHプログラム(1972)を確立して園芸活動による療育を行っており、このプログラムを現地の施設で体験しながら、学ぶとともにその方法と効果に関する検討を行っている。園芸作業を細分し、各作業の内容を現地に印づけすることによって明示して、障害者が作業を取り組みやすくすることを行っている。1日の生活計画を図示した作業内容のカードの組合せで示すことによって示して目的意識を持つようにする。これを個々の障害者ごとに療育者が1人ずつついで行うもので、行動と認識の構造化を進める療育方法であったことを体験し、その理念と方法を明らかにしている。

日本の知的障害者療育施設は療育活動に森林作業を積極的に取り入れている長野県の自閉症療育施設<白樺の家>における事例と障害が重度のため野外療育には消極的ではあるが、周囲の自然環境に恵まれた発達障害者福祉臨床施設<親愛の里松川>の事例である。日本の実情として療育者の受け持つ障害者の人数は数人であり、1:1の療育は望めない状態があり、集団的な療育を行っている。白樺の家の森林作業は森林内でのシイタケなどの原木の採取から栽培、採取までの作業が年間通じて行われ、そこに障害者が自主的に参加することによって進められている。療育者の1員として加わりながら、数人の障害者の療育と観察の記録を行った。日毎の記録を1年間の推移と経年で見ることによって自閉症状の改善効果を明らかにすると共に、入院当初と現在を対比し数十項目の指標を5段階で評価し、入所の障害者全員の評価を療育者全員で集計して客観化し、症状の軽重と療育効果の関係を数量的に明らかにした。親愛の里松川は開設当初から療育者として加わり、入所の精神遅滞の知的障害者の行動レベルに応じて介助と野外活動の時間的配分を行いながら、野外活動として造園・園芸作業とレクリエーション活動を設定している。造園・園芸作業にはTEACCHプログラムを適用して行い、3人の観察結果から1年半後で身体能力、感情の安定、コミュニケーション能力、基本的な生活能力の顕著な向上が認められた。

以上の3施設の事例を通じて、知的障害者の野外作業による療育は、療育職員の活動とその療育方法を通じて総合的な効果を示し、障害者自身も野外環境を好むようになっていくことが明かとなった。

## 審 査 結 果 の 要 旨

知的障害者の療育は社会福祉の観点で現在、重要な問題となっており、療育施設の建設も各地で進められている。療育方法の研究も長い歴史を有しているが、未だに決定的な治療は困難な問題であり、療育方法も確定しておらず、様々な療育方法が検討段階にある。近年、野外環境を利用した療育方法を取り入れた知的障害者の療育施設が建設されているが、日本ではその療育効果に関する研究はほとんど行われていない現状であった。本論文は療育介護の実地の活動を3つ施設の事例で行うことを通じて、野外療育の効果を明らかにしていこうとするものであった。

研究方法として実際の療育活動を行い、療育に当たった個々の障害者への長期的な対面的観察を通じて調査を行ったことは、会話の困難な知的障害者には、療育効果を直接、聞き取ることはできず、また、長期的療育によって効果が生じるので、調査方法としては他に方法を見い出す事ができなかったことがこうした方法をとる必要があったと考える。

U.S.A.のカロライナの施設<Carolina Living Learning Center>ではTEACCHプログラム(1972)方法として行動と認識の区分による明示(概念化)と障害者の自発的な意志のもとで生活の規則となるプログラムを組み立てることによって生活意識を構造化する療育方法

であり、日本の施設では現在、取り入れていないが、療育方法のモデルとして日本の療育と比較することができる。このプログラムを現地の施設で体験しながら、学ぶとともにその方法と効果に関する検討を行っている。

長野県の自閉症療育施設〈白樺の家〉における事例では、療育者の1員として加わりながら、数人の障害者の療育と観察の記録を行った。障害者個人の特別のプログラムはないが、集団行動として誘導され、障害者が療育者の励ましと賞賛で作業に参加することが多くあり、障害者は作業による肉体的健康の向上、野外の自然環境による行動の広がりと多様な感覚刺激、療育者とのコミュニケーションによって、多面的に療育効果が上がっていることが明らかになった。親愛の里松川の事例では3人の観察結果から1年半後で身体能力、感情の安定、コミュニケーション能力、基本的な生活能力の顕著な向上が認められた。また、こうした療育活動を展開する上で、地域住民の協力が大きな役割を果たしており、地域の自然・社会環境が有効に作用している。野外療育活動の効果は、長期間の継続的な療育によって、知的障害者の生活能力の向上と人間的な生活の安定的維持が可能となる方向が示された。

以上について、論文全体の構成、研究目的の社会的有効性、対面的観察による研究方法の適切さと努力、得られた研究結果の評価の分析、結論としての総合的考察に関して完結しており、さらに将来の展開の可能性が大きいと判断される。審査委員全員一致で本論文が岐阜大学大学院連合農学研究科の学位論文として十分価値あるものと認めた。

#### 基礎となる学術論文の発表雑誌名

- 1) 自閉症療育における里山を利用した山林活動の可能性、上原巖・佐々木健司  
レジャー・レクリエーション研究第40号, Aug. 1999
- 2) "An Attempt of Multiple Counseling Approaches to a Client with Autistic Disabilities" Iwao Uehara,  
カウンセリング研究第32巻第3号 掲載予定
- 3) "Importance of Multiple Outdoor Activities for Persons with Development Disabilities"  
Iwao Uehara, Seigo Ito  
The Journal of Therapeutic Horticulture Vol. X 掲載予定

#### 既発表論文

- 1) 森林作業が自閉症療育に与える効果について、上原巖  
日本林学会論文集第107号, Dec. 1996
- 2) 山林活動が精神発達障害者の療育に及ぼす効果について、上原巖・佐々木健司  
日本林学会論文集第108号, Dec. 1997
- 3) 山林を中心とした療育活動の可能性について、上原巖  
中部森林研究 No.46 1998
- 4) 療育活動としての森林作業の試み、上原巖  
レジャー・レクリエーション研究第38号, Mar. 1998
- 5) Effect of forest recreations in the treatment of mental disabilities  
Iwao Uehara, Yasunari Sasaki, Chiho Yamada  
中部森林研究 No.47 1999
- 6) 森林療育の意義と効果 上原巖 森林科学No.28, 2000